

**【第314号 紙面案内】**

第2面……各分会・各位委員会から

第7面……事務局から

**第79回全国研究大会統一論題解題**

大会委員長 鈴木 秀一（立教大学）

学会創立40周年を迎える2019年6月7日～6月9日、第79回全国研究大会を立教大学で開催します。統一論題は「実・学一体の経営教育」であり、本学会のアイデンティティを確認しつつその原点に回帰するという主旨です。また、40周年を記念して「経営学と実務教育」という論題で講演会を行います。

統一論題では、まず4人の実務家に、経営学の必要性や問題点、経営学に求めるものを論じていただきます。その議論の上に、4人の研究者から実務と経営学の関係や経営教育の意義についてお話しいただきます。

「実・学一体」とは実務と理論の相互作用に真摯に取り組むことで、経営に関する知識を体系化し、経営に携わる人々の人間力を涵養することにあります。実務経験が知識の体系となり、知識体系が新たな経験に結びつく、そのような知識と経験の相互作用こそ経営者・管理者を育成する機会となります。

しかしながら実務と学問を繋げることは容易ではありません。むしろ近年では、実務と学問の溝が深まっているようにも思えます。専門的知識は細分化され、各分野には国境のような壁が立ち塞がり、経営学の知識体系が閉塞的で狭隘な「たこつぼ」に閉じ込められています。知識を深耕するにつれて知識の全体像を見失ってしまうことは、とりわけ経営学のような実践的学問にとっては看過できないリスクです。

実務家が解決を求める問題は何か。実務家が発見していない問題は何か。また、学問の成果が実務に伝播する仕組みは適切なのか。学問の成果は実務に貢献しているのか。経営学の研究方法は実務への応用に応えることができるか。こうした今日の問題に経営学は答えねばなりません。地政学的にも混迷を深める今、「実・学一体の経営教育」を討議することによって経営学の新たな可能性を示すことを切望する次第です。

## ◇◇関東部会からのお知らせ◇◇

関東部会長 樋口 弘夫 (和光大学)

日本マネジメント学会 (2018 年度) 第 2 回目となります関東部会を下記の通り開催いたします。つきましては、会員の皆様、ふるってご参加くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 記

日 時：2019 年 (平成 31 年) 3 月 2 日 (土) 13:30 ~

会 場：東洋大学 (白山キャンパス) 6 号館 2 階、6205 教室

休憩室：6206 教室

会 費：500 円

日本マネジメント学会 (2018 年度) 第 2 回関東部会プログラム

【関東部会長挨拶】 13:50 ~ 13:55

【第 1 報告】 14:00 ~ 14:55 (報告 40 分・質疑 15 分)

報告者：グエン・ティ・ミン・チャン (NGUYEN THI MINH TRANG) 氏

(日本経済大学大学院)

テーマ：「外食チェーン店店長のコンピテンシーに関する研究

—天丼・てんやを例として—

司会者：樋口 弘夫氏 (和光大学)

コメンテーター：柴田 仁夫氏 (埼玉学園大学)

【第 2 報告】 15:00 ~ 15:55 (報告 40 分・質疑 15 分)

報告者：北野 康氏 (大東文化大学大学院)

テーマ：「非正規雇用従業員を対象にしたエンパワーメント

—小売業を対象にした実証研究—

司会者：平井 直樹氏 (昭和女子大学現代ビジネス研究所・株式会社システムコンサルタント)

コメンテーター：當間 政義氏 (和光大学)

【第 3 報告】 16:00 ~ 16:55 (報告 40 分・質疑 15 分)

報告者：石谷 康人氏 (高知工科大学)

テーマ：「アイデンティティ形成と現場実践の相互作用がもたらす従業員の成長」

司会者：董 晶輝氏 (東洋大学)

コメンテーター：東 俊之氏 (長野県立大学)

【開催校挨拶】 16:55 ~

【関東部会長挨拶】 17:00 ~

※懇親会 18:00 ~

日本マネジメント学会関東部会では、ご報告の応募などを随時行っております。

次回、今後の予定ですが、5月18日(土)、成城大学に於きまして「2019年度(第1回)関東部会」を開催いたします。ご報告・ご参加などの連絡先は、下記の通り、関東副部会長・當間政義(和光大学)までご連絡くださいますよう、よろしくお願いたします。

※関東部会の詳細・お問い合わせ先：関東副部会長・當間 政義< m-toma@wako.ac.jp >

## ◇◇平成30年度第1回関西部会報告◇◇

関西部会長 佐々木 利廣(京都産業大学)

平成30年12月22日(土)午後1時30分から関西大学100周年記念館第4回会議室において、日本マネジメント学会の平成30年度第1回関西部会が開催された。7月7日開催予定の第1回例会が大雨のため中止になったことから今年度最初の例会になった。出席者は実務家招待講演者暮部達夫氏を含めて19名であった。

第一報告は、小川寛子(京都産業大学大学院)「孤立死の現状分析と社会的孤立」という報告であった。小川氏は、都市部ではコミュニティの希薄化や少子高齢化の進展とともに独居高齢者が誰にも看取られずに発見が遅れるケースが増え、過疎化が進む地方でも孤立死のまま発見が遅れるケースが増加しているという。こうした孤立死に対する行政対応として東京都、大阪市、神戸市では監察医制度のもと一元的に検案が行われているが、それ以外の都市部は把握が困難である。こうした現状を踏まえて、大阪府監察医事務所の検案データをもとに孤立死の分析と社会的孤立を生まない社会についての分析と提案を行うというのが報告の趣旨であった。データ分析の結果、女性よりも男性が、集合住宅居住者が、介護サービス利用者が、生活保護受給者が、それぞれ発見が遅くなる傾向にあるという事実発見が提示された。さらに孤立死の質的分析から、孤立死の発見が親族やサービス提供以外の個人のつながりからなされた事例、生活保護行政の課題に関わるケース、そして連携がうまく機能しなかったケースを取り上げながら、社会的孤立を生まない社会をデザインするためには、地域社会のなかに多様な支援体制を埋め込むことと同時に多様な繋がりをつくることの重要性を強調された。さらに孤立死を生まない社会を考える時、企業やNPOや行政の等のセクター間の協働が不可欠であり、その詳細を理論とケースで分析することが今後の課題であるという報告であった。報告後の質疑では、地方での地縁をもとにした濃い人間関係を都市部で再現できるのか、孤立死テーマはジェンダー問題と深く関係しているのではないかと、という問題提起、さらには報告はまだ仮説検証型の研究になっていなく、行政への提言を考えると他国との比較も必要ではないかというコメントなどがなされた。孤立死問題は、最も現代的なテーマでありながら実態把握も十分にされていない現状を考えると、今後取り組むべき大きな社会課題の一つであると思われる。

第二報告は、川添雅夫(元関西大学大学院)「中小ベンチャー企業の海外進出の可能性の探求」という報告であった。リンダ・グラットン=アンドリュー・スコット(池村千秋訳)『LIFE SHIFT(ライフ・シフト)』の問題提起でもある100年ライフの時代にどう生きるかを出発点

に、地方の中小企業が廃業することなしに長期継続的に存続するためには積極的に海外へ進出することが必要であり、今こそチャンスであるという主張をされた。具体的には、どの国へ進出すべきか、進出テスト段階で何をすべきか、などを詳細に論じようと言われたが、時間的制約もあり十分詳しい説明が行われなかったことは残念である。最後に指摘された中小企業が単独で進出するよりも、グループで進出することのメリットや工場団地化への動きなどは、もう少し深い議論が欲しかった。

第三報告は、恒例の実務家招待講演であり、今回は暮部達夫氏（株式会社クレコス代表取締役社長）に「久遠～農と森と福祉のサスティナブルな取り組み～」というタイトルで講演いただいた。クレコスは自然派化粧品のお舗であり、寄附活動やボランティア活動にも積極的に取り組んできたソーシャル・カンパニーである。しかし東北大震災後の状況をみると、多額の寄附やボランティアが東北地方に偏ってしまうことで、寄附やボランティア活動を必要としている西日本地域には行き渡っていないという現状があった。こうしたことから、暮部社長は営利事業をすることが社会貢献になり、最終的には社会的事業と営利事業との融合を目指すような取り組みを始める。さらに、クレコス1社だけの活動が社会を変えることに繋がるわけではないことから、地域のさまざまなアクターと組むことで新しいブランドを生み出すことを目指している。こうした試みが久遠プロジェクトである。こうした試みの1例として、無農薬ミカンの産地である愛媛県明浜町の yaetoco ブランド、北海道下川町の森と暮らすライフスタイルの提案、東近江市の産官学創の連携によるムラサキプロジェクトなどを紹介された。紹介された事例は久遠プロジェクトの一部であり、それ以外にも全国各地で固有の地域資源を活かしながら地域ブランドとして全国に発信する試みが進んでいる。また唐津市に志を同じくする化粧品メーカーが集まってコスメテックバレーという集積が出来つつあることにも言及された。関西から中堅中小企業の社会戦略の新しい波が出来つつあることを実感する講演であった。



報告会終了後は、暮部社長も加わり大学近くのイタリアンに場所を移し懇親会が行われ、会員間の相互交流が行われた。なお平成31年度第1回関西西部会は、平成31年7月前後に大阪芸術大学アベノハルカスキャンパスで開催予定である。研究報告の希望者を募集していますので、5月末までに幹事までご相談ください。

## ◇◇第2回経営実践コンサルティング部会のお知らせ◇◇

経営実践コンサルティング部会長 柴田 仁夫（埼玉学園大学）

経営実践コンサルティング部会を下記の通り開催いたします。つきましては、会員の皆様にはふるってご参加くださいますよう、よろしく願いいたします。

## 記

テーマ：中小企業が実践する SDGs の実際

開催日時：2019年3月2日(土) 10:00～12:30（受付 09:30 から）

会場：東洋大学（会場詳細については未定）

司会：田中 克昌氏（日本経済大学／中小企業診断士）

講演企業ご紹介：株式会社大川印刷。1881年(明治14年)創業。薬種ラベルの印刷から業をなした CSR を実践する横浜を代表する中小企業。2018年、第19回グリーン購入大賞 大賞・環境大臣賞、第2回ジャパン SDGs アワード パートナーシップ賞を受賞。

## &lt;プログラム&gt;

09:30 受付開始

10:00 開会挨拶

10:05 「CSR、CSV、そして SDGs へ」

登壇者 柴田 仁夫氏（埼玉学園大学／中小企業診断士）

10:20 「大川印刷における SDGs の取組み」

講演者：大川 哲郎氏（株式会社大川印刷 代表取締役社長）

11:10 休憩

11:20 「中小企業の CSR 事例に見る SDGs への潮流」

報告者：岩瀬 敦智氏（有限会社スペースランニング MAYBE 代表取締役／中小企業診断士）

11:40 「中小企業“だからこそ”の SDGs」

報告者：酒井 勇貴氏（合同会社クレイジーコンサルティング 代表社員／中小企業診断士）

12:00 パネルディスカッション「中小企業の SDGs の可能性と課題」

討論者：大川 哲郎氏、岩瀬 敦智氏、酒井 勇貴氏、柴田 仁夫氏

12:30 閉会挨拶

参加費：1000円

以上

## ◇◇第3回経営実践コンサルティング部会のお知らせ◇◇

経営実践コンサルティング部会長 柴田 仁夫 (埼玉学園大学)

経営実践コンサルティング部会を下記の通り開催いたします。つきましては、会員の皆様にはふるってご参加くださいますよう、よろしくお願ひいたします。

## 記

テーマ：中小製造業の医工連携の実際

開催日時：2019年5月18日(土) 10:00～12:30 (受付 09:30 から)

会場：成城大学 (会場詳細については未定)

司会：田中 克昌氏 (日本経済大学/中小企業診断士)

講演企業ご紹介：シンクランド株式会社。2014年(平成26年)創業。マイクロニードル、各所検査測定センサー、光学系機器の開発を中心に医療機器の研究開発を行う。リアルテックベンチャー・オブ・ザ・イヤー<グロース部門>(2017年)、スタートアップビジネスプランコンテストいしかわ2018<最優秀起業家賞>(2018年)を受賞。

## &lt;プログラム&gt;

09:30 受付開始

10:00 開会挨拶

10:05 「これまでの中小企業の医工連携の流れ」

登壇者 柴田 仁夫氏 (埼玉学園大学/中小企業診断士)

10:20 「シンクランドにおける医工連携の取組み」

講演者：宮地 邦男氏 (シンクランド株式会社 代表取締役社 & CEO)

11:10 休憩

11:20 「医工連携の取組みと課題」

報告者：木下 綾子氏 (株式会社ステラコンサルティング 代表取締役/中小企業診断士)

11:40 「医工連携支援の現在地」

報告者：佐保 勝彦氏 (公益財団法人横浜企業経営支援財団 技術支援担当係長/中小企業診断士)

12:00 パネルディスカッション「中小製造業の医工連携の可能性と課題」

討論者：宮地 邦男氏、木下 綾子氏、佐保 勝彦氏、柴田 仁夫氏

12:30 閉会挨拶

参加費：1000円

※当日の教室等につきましてはメールマガジン、学会ウェブサイトでお知らせいたします。

以上

## ◇◇国際委員会報告◇◇

国際委員会委員長 鈴木 秀一（立教大学）

2018年11月3日(土)、韓国、大邱(テグ)市にある国立慶北大学(Kyungpook National University)で開催された韓国経営教育学会(Korea Association of Business Education)にて招待報告を行った。開会式場で日本からの招待者として会長より紹介され、その場で依頼されて急遽、初級韓国語と英語でスピーチを行った。その後、中規模教室で研究報告を行った。私の報告テーマは「Japanese Management and the Resource-Based View」で、コメンテーターの教授からはこの理論の韓国企業への適応などの適切なコメントをいただいた。同じ部屋で行われた韓国の研究者による発表には、欧米だけでなく日本の経営学者の文献も使われていたのが嬉しく感じた。全体としてこの交流には暖かい雰囲気があり、二千人の会員を擁する学会ながら細やかな配慮がありがたかった。国際委員会の柳教授には記して感謝したい。

今後の課題としては、学会の国際交流は継続することに意義があり、発表者を増やす努力も必要である。そのためには現行の発表形式である「英語スライド+英語報告+英語ディスカッション」をより柔軟にして「英語スライド」と「通訳付きの日本語報告とディスカッション」にすることも可能ではないかと思えた。日本と韓国には共通の経営問題もあり、国際交流のますますの発展を期待する次第である。

**平成30年度会費未納の方は至急納入をお願いします！！**

学会事務局

平成30年度末(平成31年3月31日)まであと1ヶ月少しとなりましたので、会費未納の方は、会費の納入を至急お願いします。また平成29年度会費も未納の方は、2年分の会費の納入を折返しお願いします。年度末に平成29年度、30年度の2年間の会費を未納の方は、自然退会となりますので、くれぐれもご注意ください。

会費の納入方法は、請求書に記載の通り、①ゆうちょ銀行の振替口座による支払い、②みずほ銀行又はゆうちょ銀行への振込みによる支払い、のいずれかです。なお、①の場合は、請求書に添付の通り払込取扱票を利用すれば、振込手数料は学会負担となります。

**会員情報の変更は速やかにご連絡ください**

学会事務局

毎年春は転勤や人事異動等の時期に当たっており、自宅住所、勤務先、電話、メールアドレス等の会員情報の変更があれば、メールやゆうちょ銀行の払込取扱票の通信欄への記入等により、必ず事務局まで速やかにご連絡をお願いします。

会員情報の変更は、会員データの維持管理上大変重要ですが、加えて、変更のご連絡がない場合は、会報や機関誌が事務局に返送される原因ともなります。つきましては、会員の皆様のご協力をお願いします。

**会員の新刊著書を紹介します**

- (1) 高垣行男編著、當間政義・城間康文・平井直樹著  
『経営学Ⅱ－応用編』 株五絃舎 2,300円＋税
- (2) 宮味香興郎・藤井一郎・澤田兼一郎編 (2. 輸送用機械器具製造業：西釜義勝)  
『業種把握読本』 金融ブックス株 2,300円＋税
- (3) 田中克昌著  
『戦略的イノベーション・マネジメント』 株中央経済社 2,700円＋税

※会員の皆様の新刊著書を紹介しますので、事務局へ献本（1冊）をお願い致します。

**メールマガジン・学会ウェブサイトをご利用ください**

学会ではタイムリーな情報を皆様にお伝えするメールマガジンを発行しています。学会にメールアドレスを登録されていない会員の方は事務局にご連絡をお願いします。また学会ウェブサイト (<http://nippon-management.jp/>) では、学会の最新の情報をアップしております。ブックマークへのご登録をお願いします。

**編集後記**

次号の会報は第79回全国研究大会を直前に控えた5月の発行です。今回の会報は大学の年度内最後となります。ご所属の変更があらうかと思いますので、事務局にご一報くださいますようお願いいたします。  
(会報委員会委員長：小野瀬 拓)

発行 **日本マネジメント学会**  
(旧称：日本経営教育学会)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-36  
S&Sビルディング3F  
株式会社山城経営研究所内 (担当：武市)  
TEL 03-6674-1836 FAX 03-5228-1233  
E-mail: name@kae-yamashiro.co.jp  
URL: <http://www.nippon-management.jp/>  
印刷 株ドットケイズ TEL 03-5206-1626  
E-mail: win@good-ks.co.jp